

指示の技術 「全員に示せ」

私にはこういうことがよくありました。

太郎くん「先生、ピーマンを残してもいいですか？」
わたし『どうしても、食べられなければいいです』
次郎くん「先生、プリンを食べなくてもいいですか？」
わたし『次郎くんは、いつも残しているから、少しは食べられなきゃだめ』
三郎くん「先生、ピーマンのこしたい！」
わたし『少し食べて、後は残しなさい』
三郎くん「先生さっき太郎くんには、残していいっていったじゃないか！」

こんな小さなことと思うかもしれませんが、しかし、服に空いた穴が初めは小さなほころびであるように、学級もまた小さなほころびから荒れるのです、経験上。

それでは、どうすればいいのでしょうか。こう言えば良かったのです。

全員途中だと思うけど、先生を見なさい。給食の残し方のことです。人間にはどんなに頑張っても食べられないものもあります。

それは仕方のないことだと思っています。ただ、全部残すと体にも悪いし、つくった人にも失礼です。

だから少なくとも一口は食べるようにしなさい。

あくまで全員に知らせるのです。休んでいる子がいたら、次の日必ず伝えることが必要です。

それでも、「残していいですか？」と聞く子がいます。

そういう子には「前に言ったとおりです」ときっぱりいりえばいいのです。

「指示は全員に」は大原則です。

指示の技術 「間接性の原理」

「傘を差して立ち小便」

はたして何のことでしょう。これは、元巨人軍の張本（現在理論派評論家）が、いいバッティングふぉーむについて言った言葉です。

さて、愛知県の教師岩下修氏はその著書『A させたいなら B と言え』（明治図書）の中で次の指示を紹介しています。（この本は必読ですよ！）

（鍋をきれいに子供達に磨かせたいとき）「お鍋を、ゴシゴシ洗う音がここまで聞こえるように洗ってごらん」と指示したそうです。

つまり、お鍋をきれいに洗わせたいときに、「お鍋をきれいに洗いなさい」と言っではいけないのであり、うるさいときに「静かにしなさい」とやたら怒鳴る教師は技量が低いということなのです。（嗚呼自分のことだ！）

私は、元幼稚園教師なので、この間接性の原理はわりと研究しました。

次のようなことを言いました。

「雑巾が、痛いようっていうくらいしぼりなさい」

「キュッキュッって音が聞こえるように、机を拭いてごらん」

「机の上の絵の具を全部雑巾にうつしてみよう」

「2つの靴を仲良しさんにしてね」

「桃ぐみさん音が出ないように座れるかな。……。すごーい！青ぐみさん桃ぐみさんに負けないように座れるかな？」（シーンとなる）

（バス遠足のバスの中）「お尻にボンドを付けましょう」